

森の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成17年12月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail: hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

企画展

攻める！きたえる！

武器の歴史と赤羽刀の美

人間は、旧石器時代から狩猟用の道具を製作してきました。その後、定住生活を送るようになって、社会を形成するようになると、戦いの道具としての武器が作られるようになりました。本展覧会は、日本における旧石器時代から江戸時代にかけての武器の変化を、剣と刀に焦点をあてて紹介します。



写真提供：松葉一路氏



会場には、旧石器時代からの様々な狩猟道具や武器に加え文化庁より受け入れた赤羽刀（戦後、全国から集められた刀が東京都赤羽のGHQ倉庫に保管されたことから「赤羽刀」と呼ばれています。）が展示されます。また、剣・刀を作る材料とその工程、現在刀の製作を行っている県内の刀鍛冶師や鶴戸神宮を発祥の地とする愛洲影流伝説等も紹介します。

博物館で日本刀の美をご堪能ください。（崎田）

会期：平成18年2月15日(水)～3月26日(日)

休館日：毎週火曜日（2/21、2/28、3/7、3/14、3/22）

会場：宮崎県総合博物館 特別展示室

観覧料：無料

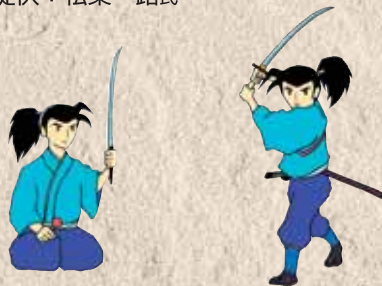
関連講座

赤羽刀の歴史と美

日時：平成18年3月12日（日）

午前10時30分から12時まで

場所：宮崎県総合博物館 2階 研修室1



日本自然科学写真協会写真展

観覧料無料

第26回 SSP展

自然の中の不思議を知る

開催期間 2006.1.5(木)～1.30(月)
観覧時間 午前9時～午後5時まで
(入場は4時30分まで)

休館日 1/10、17、24

身近な鳥や昆虫、植物をはじめ、天体や山岳、自然風景などを被写体とし、その姿を巧みな技術で撮影した写真展です。

今回の展示は114点、どの写真も私たちを引きつける魅力ある作品ばかりです。

この写真展は、今回で第26回目となり、昨年に引き続き宮崎での開催です。本年度は、東京、大阪、福岡、新潟、愛媛、京都、宮崎の7会場で開催されます。この機会にすばらしい作品の数々をご堪能ください。(串間)



SSP大賞 同時進行 河田雅隆
(アオウミウシが交接中に産卵)



ブロッケン現象 武田康男

日本自然科学写真協会(SSP)とは

<自然>と<科学>の広場に1本のクラブを立て、親睦と情報交流の場をつくるとともに写真教育の助成と高揚を通して、写真文化の向上と発展を願う写真文化団体です。著名なプロ写真家をはじめ、アマチュア写真家、自然科学、写真関係にたずさわる研究者、編集者など多くの方々が参加しています。

英称 Society of Scientific Photography (略称SSP)

宮崎の考古情報

九州山地の旧石器時代人のすみか

出羽洞穴

歴史の常設展示は出羽洞穴の写真を背景に一階自然史展示室入り口の照葉樹林ジオラマの中にいるシカを狙う旧石器人の姿を再現したジオラマから始まります。

大分県との県境、日之影町見立の標高約920mの山中にある出羽洞穴は巨岩が重なってできた岩陰を利用した旧石器時代人のすみかです。

1965(昭和40)年、南九州短期大学の鈴木重治氏を中心に南九州大学の学生や宮崎高校の生徒たちも参加して発掘調査が行われ、洞穴内から2万年前頃の尖頭器や斧形の旧石器が発見されました。宮崎県で初めておこなわれた旧石器時代の調査として学史に残る貴重な遺跡です。

出羽洞穴の一带はいくつもの巨岩が露出する険しい山中ですが、近くには沢もあり、石器の材料にした石がたくさん転がっています。鹿の鳴き声でも聞こえてくれば、まさに、旧石器時代にタイムスリップしたかのような情景が広がっています。

出土した石器は、本館のほかに日之影町の町民センター展示室にも展示してあります。

(永友)



出羽洞穴(平成17年11月に撮影)

講座紹介

「植物の標本をつくろう」

博物館では、夏休みに植物の標本を作る子ども達のために毎年この講座を開いています。標本の作り方を知っているのと知らないのとでは、出来ばえや内容が全然違います。講座では、まず標本の取り方を指導します。どういうものが良いのか、大きさはなど実践的な説明をします。その後で、実際に野外に出て標本採集をします。採集を終えると研修室にもどり、押し葉を行います。また、採集した植物に名前をつけます。押した標本は家に持って帰り標本に仕上げます。また、標本を台紙に貼る練習もします。あわせてラベルの書き方も学びます。わずか2時間の講座ですが、標本作りのノウハウを参加者はしっかり学んで帰ります。昆虫標本や化石標本の作り方を学ぶ講座もあります。

(斉藤)

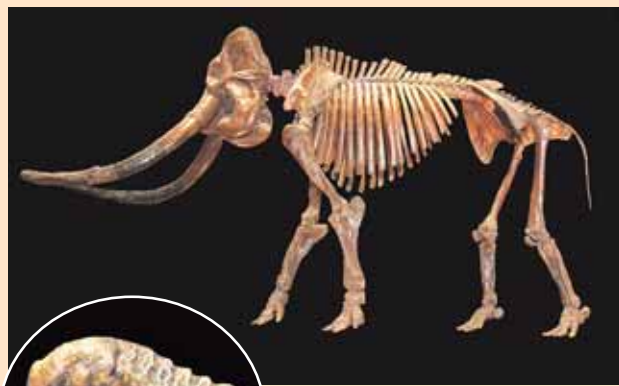


常設展示室紹介

ナウマンゾウ

ナウマンゾウは約30万年～2万年前に生息したゾウで、全国の約200か所から化石が見つっています。県内では西都市都於郡での発見が唯一で、妻高校の生徒や先生らによって1959年に1点、1964年には化石片23点が見つかり、接合復元し鑑定を行った結果、子供のナウマンゾウの第三臼歯および下顎骨であることがわかりました。2001年には7点の化石片が見つかり、以前発見されていたものと同一個体の大腿骨の一部で、年代は少なくとも9万年前より古いものと推定されました。当館では都於郡で産出した臼歯と下顎骨のレプリカや、北海道忠類村で産出した全身骨格のレプリカを展示しています。なお、都於郡産ナウマンゾウの実物化石は西都市歴史民俗資料館で展示されています。

(松田)



全身骨格(北海道産)



臼歯(都於郡産)

収蔵資料紹介

木造大黒天像

江戸時代(天明9年か)、一木造、像高65.5cm

2つの俵に乗ったふくよかな表情で人気の大黒天像で、木喰上人が日向国(宮崎県)に滞在しているときの作です。大黒天はもともとヒンズー教の神ですが、日本に伝わってからは、穀物、食、蓄財の神としてまつられ、多くは台所などに安置されました。この大黒天像の裏書き(紙貼り)には天明9年(1789)2月と書かれており、仏像の完成年月と考えられます。甲斐国(山梨県)出身の木喰上人は、全国を歩きまわって各地で多くの仏像を残しました。天明8年(1788)70歳のときに現在の西都市にやってきて、国分寺の住職となり、寛政3年(1791)に国分寺が火災にあったため、その再建に尽くしました。大黒天像は、現在歴史常設展示室に展示中で、多くのお客様の目を楽しませています。

(初木)



民家園のご案内

博物館には、宮崎県特有の建築様式を持つ4棟の民家^{い ちく}を移築した民家園があります。これらの民家は、2棟が国の重要文化財、残り2棟が県の有形文化財に指定されています。

これらは、現在「宮崎の昔話」公演（毎月第3土曜日に実施しています。）会場として活用されています。博物館では、文化財を保護すると同時にこれらを積極的に活用し、県民の皆様へのサービスを向上させるという観点から民家園の貸し出しを行っています。古い民家の持つ独特のロケーションが、展示会や各種事業に一味違った面白さを加えてくれると思います。詳しい内容は、博物館までお問い合わせください。（崎田）



展示解説員の声

博物館正面玄関前のクロガネモチの実も、秋の陽を受けて、日に日に赤く色づいていきます。

今年度も「昔の暮らし」の学習等に多くの方々が訪れている2階歴史展示室。心待ちにされた展示替えのコーナーへ笑顔で向かわれる姿もお見かけします。時には、先人の思いにふれ、先人の知恵に学び、また、しばし懐かしさの中に身を置きながら、宮崎の歴史と一緒に紐解いてみませんか。宮崎の古^{いにしえ}がより身近に感じられることを、そして宮崎県総合博物館での思い出を皆様の歴史の1ページに加えていただけたら嬉しく思います。

スタッフ一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。
（展示解説員：瀬堀）



お知らせ

* 故郷からのおくりもの 高橋まゆみ人形展(貸館)

高橋まゆみさんの人形展が12月24日(土)まで開催されています。昔なつかしい日本の原風景に生きる人々の姿が人形とジオラマで「四季」をテーマに表現されています。この機会にぜひご覧ください。

観覧料

一般600円(500円) 大学・高校・中学生500円(400円)

小学生以下無料

※()は20名以上の団体料金

* 4月から常設展示が無料

常設展観覧料が平成17年4月から無料になりました。休館日も昨年度から火曜日になっています。

* 臨時休館のお知らせ

以下の期間は、常設展示場のメンテナンスのため臨時休館となります。

2月1日(水)～2月2日(木)

※1月31日(火)は休館日です。



©「故郷からのおくりもの」実行委員会